

今年の春、ストーブ仲間から端材があるからとの誘いを受け貰いにいきました。

端材は、ねずこ下駄・製造販売の長野県朝日村の三村木工所の端材置き場に積まれたもので、木曽五木のひとつ「ねずこ」の木でした。

ここ1週間、この端材をストーブで燃やすため、丸のこ切りで切ってみたり、小型のチェーンソーで切ったりして、ようやく残り3分の一(写真の量)になりました。

ねずこ下駄は、端材を貰ったこの木工所で2年前に買ったものです、買ってから時折履いています。

昭和23年生まれの私は、下駄で育った年代でした。



<ねずこ下駄の木材残り>

小学校時代の履き物の記憶はあまりありませんが、家で遊ぶ時などは下駄だった気がする程度です。中学時代は小学校が家のすぐ近くだったのに1.2kmもの距離を歩くはめになったのですが、小学校通学が近くのをせいで時間ぎりぎりにいつも家を出るくせが抜けず、毎日下駄を履いて、小走りときには大走りで3年間通った記憶が鮮明にあります。高校時代は3kmもありましたので自転車通学、下駄がほとんどのような気がする。大学1年までは家から通っていましたが、2年からは下宿先からバイク通学になってから下駄を履くのが少なくなった。



<ねずこ下駄>

清水高原の家の廻りに道をつけたのが、平成10年の雨氷害で折れた松の木が屋根に直撃したことでできりの人に頼んで周りの木を伐採してからです。

最初は伐採した唐松を土台に組そこにコンパネを張った道を作り、そこから延びるように写真のような道をつけていきました。道は徐々に延長されていき、林の中に散歩道が何本も出来てしまいました。

このキノコの時期の散歩は、下駄を履きながら、ちょっと音をたてながら、目はキノコを探しながらゆっくりと歩く、気分爽快。



<家の廻りの散歩道>

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>